



2011年9月、石狩湾新港付近のサケ定置網に混入したジンベエザメ
(撮影:清水周一郎さん)



いしかり
博物誌
129

世界最大の魚、石狩に出現！

2011年9月16日。定置網を引き揚げたところ、中には巨大な魚が入っていて暴れていました。もがく巨体で船は転覆しそうになりましたが、網の口(約11〜13m)に頭と尾が引つ掛かり、なかなか逃がすことができません。網や漁船の大きさと比較して、体長は推測14〜15m。なんとか網の外に追い出すと、その魚は悠々と泳ぎ去っていききました。残ったのは携帯電話で撮影された2枚の画像だけ。青みがかった灰色の全身に、白い斑点

模様。一目で分かります。ジンベエザメ。しかも最大級の。

石狩のサケ定置網にジンベエザメが混入したらしい——。2013年10月、資料館にそんな情報が入ってきました。これは聞き捨てならない！ 漁協に行き、早朝の水揚げが終わって網の手入れをしていた漁師さんから聞いた2年前の事件が、この話でした。

世界最大の魚、ジンベエザメ。体長が計測された最大記録は

はあるのでしょうか。調べてみたところ、今回明らかになった石狩の例を含めて、3件ありました。

2012年、余市沖で体長3mのジンベエザメが混獲された例がありました。おたる水族館に運ばれ、しばらく飼育・公開されたので、見に行つた人もいるかもしれません。しかしエサを食べてくれなかったため、10日後、衰弱する前に海へ帰したそうです。これをきっかけに水族館の学芸員が道内の記録を調査中ですが、これまでのところ、余市

の例のほか、増毛(2011年9月)、そして石狩の例しか、記録は見つかっていないようです。増毛で発見されたのは石狩とほぼ同時期ですが、全長は5m程度なので、明らかに別の個体です。

マンボウ、マグロ、アオイガイなど、近年の北海道沿岸では、本来は暖かい海に分布する生物の増加が目立っています。ジンベエザメの例も、もしかしたら海水温の変化の影響かもしれません。

(志賀健司)



志賀健司 Kenji Shiga

専門は地質学・漂着物学・海辺学。地球の環境の変遷などを調べるとともに、石狩の浜辺にどんなものが漂着し、それがどんな意味を持っているかを研究する。



ジンベエザメ

(フリー百科事典「ウィキペディア(Wikipedia)」(Zac Wolf, Stefan)より)

ERIS 「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ(<http://www.i-eris.tv/>)でもご覧いただけます。